

シンガポールの デイベロツパー

伊東豊雄
いとうとよお
建築家

シンガポールに〈VivoCity〉と呼ばれるショッピングセンターがオープンした。セントーサ島へ渡る付け根のところにあって海に面している。ショッピングモールの他に、シネマコンプレックスやさまざまなレストラン、フードコート、子供の遊び場や、2000人収容の屋外劇場を備えたリーフガーデンもある。海辺のベドストリアンデッキにはアートワークもある。

このテーマパーク的趣向が当たったのか、デイベロツパーの、未

来のライフスタイルを先取りする、というコンセプトが当たったのか、オープン前から信じ難い人々が連日訪れている。グラランドオープン前の7週間に、何と約700万人の人が押しかけた。シンガポールの人口が450万弱だから驚異的な数字である。いくらシンガポールの人が買物や食べるのが好きだからと言っても、1日平均十数万人の人が訪れるとは予測出来なかったらしい。

だが、この成功の陰には一人の立役者がいた。エドモンド・チェンというデイベロツパーのチェアマンである。彼は中国から香港経由でシンガポールにやってきた華人のビジネスマンで、本業以外にもアートや文化事業など十指に余る要職をこなしている。学生時代は

アメリカで建築を学んだというだけあって、デザインにも造詣が深く、このプロジェクトのデザインも彼との信頼関係なしには最後まで辿り着かなかったに違いない。

彼は食べることに貪欲で、月に一度はただ食べるためだけに日本を訪れる。或る時私が馴染みの寿司屋に連れていったら、すっかり気になって私よりもよく行くようになった。そして行く度に、出されるすべてのネタをノートに克明に記録する。グルメブックが書けるほど日本のレストランのことを良く知っている。いや日本だけではない。パリでもバルセロナでも、食べるためだけに駆けつけていく。その好奇心とエネルギーがあつた成功を呼び寄せるのだろう。☺